

### 【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

平成30年度の最大トピックスは、何と言っても中村茂前名人が、中山智晴名人とのリターンマッチを制して見事第56期名人位に就いたことでした。これで中村名人は通算29期目、実に名人戦の半分以上の期間で名人位を保持するという、前代未聞の事態になりました。しかも、連珠命名120年となる2019年には第七世永世名人となることから、現役名人＝永世名人という状況が起こり、これもまた前代未聞のこととなります。中村名人はこれまでマスコミへの露出を始めとして様々なメディアに登場して連珠の地位向上にも貢献してもらっています。引き続き連珠界の地位向上を図るため、連珠社としてもさまざまな活動を仕掛けていく予定です。

昨年はまた、SNS等インターネットを通じてアピールができたのも良かったと思います。さらに、ホームページは多くの連珠愛好家と日本連珠社を結ぶ架け橋ともなっているため、毎年充実をさせていきたいと考えています。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。平成30年5月に、ロシア・サンクトペテルブルグで開催された「第12回チーム世界選手権」では、日本チームは2位の成績を収め、世界における日本の地位を再確認することができました。しかしながら、優勝した中国チームは他を寄せ付けない圧倒的な実力を発揮し、世界No.1のチーム力をまざまざと見せ付けました。国際交流においては、連珠発祥の国という唯一の特性を生かし、積極的に交流いただいたと思っています。

また、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても引き続き全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

### 【総会に関する事項】

#### (1) 定時会員総会

- ・平成30年5月27日(日)13:30～14:30 於：江東区文化センター4階第2会議室
- ・出席会員数76名（うち委任状56名、会員総数112名、出席率68%）
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、飯尾義弘氏の3名を指名後、議事録作成者に河村典彦氏、岡部寛氏を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・飯尾氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・平成29年度の事業報告について、議決承認された事業報告文を河村理事長が簡単に説明した。
- ・平成29年度の財務諸表等について、亀井監事より処理が適切であったことが報告された。
- ・平成30年度事業計画と収支予算案について内容を河村理事長が簡単に説明した。
- ・議事録を全正会員（特別会員・家族正会員を含む、以下同じ）に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2018年7月号に掲載し、平成29年度事業報告・収支決算、平成30年度事業計画・収支予算案、役員を選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

## [理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略）平成30年5月7日(月)～同5月20日(日)
  - ・出席役員 理事13名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
  - ・議事録作成者：河村理事長
  - ・第4号議案で平成30年度の特別表彰に、澤井敏郎氏、山本靖弘氏が選出された。
  - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「平成29年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 平成30年5月27日(日)10:00～16:00（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時30分～14時30分迄中断） 於：江東区文化センター4階第2会議室
  - ・出席役員 理事11名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
  - ・議長：河村理事長
  - ・書記：河村理事長・岡部理事・飯尾理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：出席理事11名、監事2名
  - ・第6号議案で、理事職務分掌の見直し、及び各委員会委員長の選任を行った。
  - ・第7号議案で、連珠の普及のためのアイデアが検討された。
  - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2018年7月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 平成30年10月28日(日)12:30～14:30 於：東京都北区「Cohaco」
  - ・出席役員 理事11名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
  - ・議長：河村理事長
  - ・書記：河村理事長・岡部理事・飯尾理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：出席理事11名、監事2名
  - ・第1号議案で、名人戦総括規定の見直し案が提案され、賛成多数により可決された。
  - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2018年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略）平成31年2月12日(火)～同2月24日(日)
  - ・出席役員 理事13名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
  - ・議事録作成者：河村理事長
  - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の2019年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

## [委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
  - ・河村事務局長指示の下、事務局作業の一環として、盤罫紙や書籍など普及資料の発送手配、電話での問い合わせには可能な範囲で回答し、円滑な総務活動を行なった。
  - ・河村理事長指示の下、理事として内閣府提出資料や法的文書入手の一部を実行した。
- (2) 普及推進委員会
  - ・東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2019年3月で209回を数える。
  - ・級位認定規定、級位認定ガイドラインを策定し普及活動の一助とした。
  - ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
  - ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施した。また、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し、指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
  - ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ

出展し、普及推進につなげた。

- ・全国各地で自治体・自治会などが主催するイベントに出展し連珠の認知度をアップさせた。
- ・小学校の土曜教室、クラブ活動で連珠教室を開催し普及推進につなげた。
- ・他競技と共同で普及活動を行い新しい愛好家を増やした。
- ・東北地区をはじめ他地域との棋戦の調整を行い、関東地区の公式戦を実施した。
- ・SNS上で詰め連珠他の情報発信を行い、「連珠」の認知度を上げた。

### (3) 財務委員会

- ・河村理事長指示の下、財務委員間で協議し、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。  
一方、より緻密な財務管理のため、2019年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。
- ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- ・ただし、委員会としてまとまっていた活動、本来委員会として行なうべき、財務健全化への提言等が行なえていないのが課題である。

### (4) 広報委員会

- ・名人戦や国際大会の開催にあたり、各新聞社や他競技役員と連絡を取り、取材に対応した。
- ・サイバーエージェント社「FRESH!」チャンネルにおいて、名人戦五番勝負の中継を行なった。
- ・Facebook、Twitterでの情報提供を行なった。
- ・桑名七盤勝負をはじめ、他競技愛好家との交流を通じて広報活動を行なった。
- ・ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出展した。
- ・「実戦で勝てる連珠二択問題集」「実戦で勝てる連珠四追い問題集」を発刊した。

### (5) 国際委員会

- ・RIF会長のヘニングソン氏と連携し、連珠の諸問題について議論し、解決を図った。
- ・開局規定の変更に伴い、世界での四珠交替打ちのトレンドを分析して連珠世界誌に原稿を投稿した。

### (6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、754号から765号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
- ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事を掲載した。

### (7) メディア委員会

- ・連珠社ホームページを維持するとともに改善・充実を行った。具体的には、公開情報の最新版維持とともに、限定公開ページの作成、名人戦A級リーグ戦の速報を始めとする主要棋戦の結果報告と過去の結果情報の充実、各種棋戦やイベントのカレンダー機能やトップページでの広報、初心者向け詰連珠問題の毎週提供、安全な通信を保証する常時SSL化を推進した。
- ・組織としての連絡体制を支援するメール環境の維持・充実を行った。具体的には、メーリングリストや委員会メールアドレスの維持、支局・支部との連絡のためのアドレス作成を推進した。

### (8) 珠規審議委員会

- ・公式戦導入3年目の開局規定である四珠交替打ちの、実施状況を確認した。
- ・チーム世界選手権開催中や、日々のメールやSNSでの連絡において、各国の棋士と意見交換を行なった。

### (9) 段位審査委員会

- ・三森段位審査委員長指示のもと、日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく段免許状の発行と機関誌上での発表記事を作成した。  
平成30年度に於いては、理事会で審議すべき例外事案の発生はなかった。
- ・平成30年度昇入段者数は下表の通り。公式棋戦優勝者の昇入段申請の減少傾向が続いている。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
平成30年度	0	0	1	0	2	1	0	1	4	9
平成29年度	0	1	1	1	1	3	1	0	3	11
平成28年度	0	1	2	4	2	2	5	2	3	21
平成27年度	1	0	1	0	4	4	1	3	5	19
平成26年度	0	1	1	2	1	2	4	2	3	16

(10) 名人戦運営委員会

- ・第56期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成30年9月に焼津市の<西焼津セントラルホテル>で実施した。
- ・同名位挑戦手合い5番勝負を、委嘱した名人戦運営委員の協力で実施した。挑戦者決定リーグ、挑戦手合い共、インターネットでのライブ中継は好評であった。
- ・挑戦者の中村茂九段が2勝2分で、中山智晴名人を破り、27回目の名人位に就いた。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をRIF（国際連珠連盟）に報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・東日本地区の情報収集には故小林高一五段に替わり、丸田浩貴五段に協力を頂いた。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・通信戦：104回・105回通信戦の実施し、102回・103回の講評を連珠世界に掲載した。
- ・詰連珠：2017年に発表された全ての詰連珠関連の創作物を対象に、第12回詰連珠大賞の選定を行い、誌上表彰及び作品賞に対しカップの呈賞を行った。第43回四追い作品コンクール、第39回限珠案コンクールを実施した。また、月例詰連珠、天狗道場、特別昇入段テストを実施した。

(13) 特別表彰制度

- ・平成30年度は該当者、澤井敏郎氏（京都府城陽市）、山本靖弘氏（静岡県湖西市）、二氏の特別表彰記念品と表彰状の手配を遅滞なく実行した。